

---

特別寄稿

---

「人とペガサス」に想う

—人間科学研究科のより高き飛翔へ—

Thoughts on “Man and Pegasus”

—Towards Higher Advancement of the Human Science Department—

木村利人

数年前の夏、私はスウェーデンのウプサラ大学でのバイオエシックス国際会議を終えた後、ストックホルムへと向かった。

私たちの所沢キャンパスのシンボルとなっている「人とペガサス」のオリジナルをカール・ミレス彫刻庭園美術館で見るためだった。

ひとがペガサスの翼の上に立ち上がり、高く高く果てしなく蒼い大空を目指し、飛翔しているオリジナル彫刻を見て、たしかに感動はした。

しかし、ああ、やっぱりこの彫刻は、所沢キャンパスにあるほうが、はるかに相応しいという思いがしたのだ。

所沢キャンパス開設以来17年を経て、美しく大きく高く聳えている緑の樹々や背景の乳白色の校舎の建物など、周囲の景観と、この「人とペガサス」が絶妙の芸術的空間を創り出してきたのだと思う。

私は、この17年間で所沢キャンパスで過ごし、大学院でも、設置後まもなくの頃からバイオエシックスの講義や演習を担当する機会が与えられたのは大変に嬉しいことであった。

特に大学院のバイオエシックス・ゼミではワシントンD.C.での夏期バイオエシックス特別研修をジョージタウン大学ケネディ倫理研究所はじめNIH、ホスピス、高齢者退職ホームなどで行ったのが強い印象に残っている。

それぞれの年代の、それぞれの院生諸君が、極めて熱心な研究意欲に燃え、国内や国外の施設でのバイオエシックス研修を含め、個性的で独創的な研究を行い、それらの体験をふまえての成果を各自が論文としてまとめることが出来たのは嬉しいことであった。

私の大学院でのゼミでは、毎年前期には私の執筆した英語によるバイオエシックス文献をテーマ別に幅広く読み、後期には特定のテーマに沿って、世界各国の研究者による各国の文献を読み、主として英語で討論し、その総括とまとめの講義を私が英語で、時に日本語の解説を加えて行うことにしていた。このようなトレーニングが、アメリカでのゼミ研修でも院生諸君には大いに役に立ったのだと思う。

かつて、私がスイスのジュネーブ大学大学院教授として「人権論」を担当していた時、国際大学院なので必修の講義は、同時通訳付き（英・独・仏）だったが、ゼミや討論ではしばしば通訳なしに英語、ドイツ語、フランス語の3か国語が入り交り、激しく意見が飛び交った。

学生たちも欧米諸国のみならず、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの諸国から来ていた。私自身は中学からは英語、高校時代には、フランス語、大学時代にはドイツ語、大学院ではスペイン語を学んだ。

更に東南アジア比較法学研究のため、タイのチュラロンコン大学で5年間研究・教育に従事していたのでタイ語、その後サイゴン大学でも2年間教えていたのでベトナム語など欧米とアジアの言語が、ある程度理解できて、ジュネーブの国際大学院で教える立場からすれば、もちろん完全とは言えないまでも、それらの国々の学生たちとのコミュニケーションに大きく役立った。

このような国際大学院での経験をふまえて考えてみると、私たちの大学院人間科学研究科も、世界の各国からの大学院生たちを積極的に受け入れて、日本語や英語だけに偏らない、開かれた多言語による学問の研究・教育の共同体を作り上げていくのが今後望ましいと思われる。研究と教育面で、更に飛翔するためにために、わたくしたちの人間科学研究科はもっともっと人数の面でも多くのスタッフが必要になるし、特に女性の教授陣の充実は当然のこと、様々な国からの教授を迎え入れる必要があると思う。

さて、「人とベガス」の彫刻に関連して、所沢キャンパスにはあって、スウェーデンのカール・ミレス彫刻庭園美術館には無いものがあることを御存じの方がおられるだろうか。

それは、所沢キャンパスには、カール・ミレスの彫刻を下から支える角柱を囲んだ植木の外側のサークルの地面のコンクリート上に「英文」が彫り込んであるということである。

この英文の内容は、私が世界の研究仲間達と共に、作り上げて来た学問分野である「バイオエシックス」へのアプローチとも重なりあう極めて示唆に富んだ言葉なのである。

そこで、早稲田大学院人間科学研究科の無限の可能性への大きな飛翔を願いつつ、原文が「大隈重信」によって書かれた英訳碑銘の最終行を以下に記しておきたい。

“When one hopes to soar high, one must not fail to study deeply.” Shigenobu Okuma

最後に、大学院人間科学研究科の諸先生、担当職員諸氏、院生諸君に心からなる御礼を申し上げます。まだまだ、これからも日本や世界の各地でお目にかかるチャンスが多くあるかと思いますが、ひとまず在任中は本当に有り難うございました。

## 木村利人先生略歴

### ■学歴

- 1957年 早稲田大学第一法学部卒業
- 1959年 早稲田大学大学院法学研究科修士課程基礎法学専修修了
- 1964年 早稲田大学大学院法学研究科博士課程英米私法単位取得

### ■職歴（日本国内）

- 1957～59年 早稲田大学第一法学部・第二法学部 副手
- 1976～78年 早稲田大学第一法学部 講師（比較法学・英法書研究）
- 1978年 早稲田大学国際部 講師（Comparative Legal System）
- 1987年～現在 早稲田大学人間科学部教授
- 1988年～現在 早稲田大学人間総合研究センター  
バイオエシックス研究プロジェクト担当責任者
- 1989年～現在に至る 早稲田大学比較法研究所 研究員
- 1991～94年 東京大学大学院医学系国際保健学 講師（Bioethics）
- 2000年～現在 早稲田大学国際バイオエシックス・バイオ法研究所所長
- 2001年～現在 早稲田大学大学院理工学研究科生命理工学専攻 講師
- 2004年 早稲田大学名誉教授

### ■職歴（海外）

- 1965年～69年 タイ国立チュラロンコン大学 講師
- 1970年～72年 ベトナム国立サイゴン大学 教授
- 1972年～75年 スイス・ジュネーブ大学大学院教授  
ボセイ・エキュメニカル研究所・副所長
- 1978年～80年 アメリカ・ハーバード大学研究員
- 1980～1987年 アメリカ・ジョージタウン大学ケネディ倫理研究所  
国際アジア・バイオエシックス研究部長・教授・医学部客員教授
- 1987年～現在 同上非常勤研究部長・客員教授
- 1983年 カナダ国立プリンス・エドワード島大学・客員教授

### ■学位

- 2004年 博士（人間科学）（早稲田大学）

### ■研究業績（1960年代より現在に至る主要なものを記載）及び関連事項

1960年代よりの著書・論文等研究成果等に関する情報は「木村利人・全業績データTOPページ」(<http://www.bioethics.jp/database/index-j.html>)に掲載してある。これらの内容は早稲田大学「学術年鑑」の分類に準拠し、英語・ドイツ語・中国語による著書（単著・共著・編著・監修）をはじめ、学術論文、分担執筆論文、評論、学会報告、国際会議、学術講演、翻訳、取材、調査報告、編集、インタビュー・対談・座談会、研究助成、その他から構成されている。関連事項のウインド

ウをクリックして全文献が参照可能であり、多くの論文はホームページで全文読めるようにイン  
プットされている。

## 1. 著 書 (邦語及び英文の単著/共著・編著・監修・分担執筆を含む主要なもの)

### A) 単 著

- 「Rapid Social Change in Asia」 ICYE (Geneva), 1969  
「バイオエシックスとは何か」 北里大学医学部医学原論機構, 1980  
「バイオエシックス・セミナー」 医学書院, 1985  
「いのちを考える: バイオエシックスのすすめ」 日本評論社, 1987  
「あなたのいのちは誰のもの: 人権運動としてのバイオエシックスの新しい展開」  
日本生活協同組合連合会 医療部会, 1989  
「自分のいのちは自分で決めるー生病老死のバイオエシックス=生命倫理」 集英社, 2000  
「クローン人間と生命倫理」 YMCA, 2001

### B) 編 著

- 「患者にとって医療とは何か」 早稲田大学国際バイオエシックス会議論集, 1992  
「Encyclopedia of Bioethics」 2nd edition, 5 vols. Macmillan Free Press, 1995  
「Advance Directives and Surrogate Decision Making in Health Care: United States,  
Germany and Japan」 Johns Hopkins University Press, 1998  
「バイオエシックス・ハンドブッケー生命倫理を超えて」 法研 2003  
「看護に生かすバイオエシックスーより良き倫理的判断のために」 学研 2004

### C) 共著及び分担執筆の著書

- 「法社会学講座 第10巻 歴史・文化と法」, 岩波書店, 1973  
「Genetics and the Quality of Life」 WCC (Geneve), 1974  
「Genetic Engineering」 NCCCUA Pilgrim Press, 1983  
「生命科学は医療を変える」 講談社, 1984  
「バイオエシックス講義録 第1・2回研修記録」, 名古屋看護研究会, 1984  
「Health Policy, Ethics and Human values : An International Dialogue」  
WHO-CIOMS, (Geneve), 1985  
「バイオエシックス講義録 (2) 第3・4回研修記録」 名古屋看護研究会 1985  
「Genetic Counseling in the World」 (Ethics and Human Genetics : A Cross-Cultural  
Perspectives), Pergamon Press (N.Y.), 1987  
「Human Dignity and Medicine」 International Congress Series, Elsevier Science  
Publishers (Biomedical division), 1988.  
「Law in East and West」 Bioethical and Socio-legal Aspects of the Elderly in Japan,  
Waseda University Press, 1988. 9.  
「新しい生命倫理を求めて」, フマニタス選書13, 北樹出版 1989  
「生命と倫理」, 日本倫理学会編, 慶應通信 1989

- 「Human Genetic Information」 John Wiley & Sons, 1990
- 「変わる世界を考える」, 筑摩書房, 1990
- 「医の統合V」 医の統合を語る会, 日本医事新報社, 1990
- 「Ethics, Trust, and the Professions」 Georgetown University Press, 1991.
- 「Ethical Issues of Molecular Genetics in Psychiatry」 Springer-Verlag, Heidelberg, 1991.
- 「臓器移植へのアプローチVI」 臓器移植と倫理委員会メディカ出版, 1991
- 「Genomanalyse und Genterapie」 Springer-Verlag, Heidelberg, 1991
- 「生命の意味」(I) 思文閣出版, 1992
- 「エコロジーとキリスト教」, 新教出版社, 1993
- 「Transcultural Dimensions in Medical Ethics」 University Publishing Group, (Frederick, Maryland), 1993
- 「Ethics and Research on Human Subjects」 Council for International Organizations of Medical Sciences, Geneve, 1993
- 「医療と人間(II): 医療と倫理」, メディカ出版, 1994
- 「生命倫理と医療」, 丸善株式会社, 1994
- 「激動する医療: 21世紀への挑戦と選択」 読売新聞編集局, 国際商業出版 1995
- 「Ethik und Medizin- Was leistet die Kodifizierung von Ethik ?」 Wallsterin Verlag, Gottingen, Germany, 1997
- 「最新内科学大系1(別冊) 医の倫理の課題と展望—バイオエシックスの視座から, 中山書店, 1997
- 「Gene Therapy and Ethics」 (Studies in Bioethics and Research Ethics 4) ACTA UNIVERSTATIS UPSALIENSIS, 1998
- 「講座・現代キリスト教倫理: 生と死」, 日本キリスト教団出版部, 1999
- 「喜びのいのち—出生前診断をめぐる」 新教出版社, 2000
- 「生命科学と倫理—21世紀のいのちを考える」 関西学院大学出版会, 2001
- 「Aging and Social Policy: A German-Japanese Comparison」 Munich: Iudicium Verlag, 2003
- 「Encyclopedia of Bioethics」 3rd Edition, Macmillan References, New York, 2004

## 2. 論文 (1985年以降に外国語で発表された主要単著論文)

1. Kimura, Rihito., 1965, The Struggle for Independence in Vietnam, "Student World", LVIII・4, WSCF, Geneve.
2. Kimura, Rihito., 1969, Challenge of Change in Asia, "Asia Focus", 4 (2).
3. Kimura, Rihito., 1973, Some Notes on Eugenic Protection Law in Japan, 8, Ecumenical Institute
4. Kimura, Rihito., 1984, Bioethics & the International Community, "Echoes of Peace", 3 (1).
5. Kimura, Rihito., 1984, Asian Bioethics Research : Its Aim & Program, Georgetown University Medical Bulletin, 37 (1).

6. Kimura, Rihito., 1985, Who should Manipulate Life ? : A Bioethical Point of View, "Peace in Terra" 24.
7. Kimura, Rihito., 1985, Medical Technology for the Elderly in Japan, "International Journal of Technology Assessment in Health Care", 1 (1), pp.491-494
8. Kimura, Rihito., 1985, Health Care for the Elderly in Japan in "Health Policy, Ethics and Human Values, An International Dialogue", ed. by Bankowski. Z. and Bryant, J. H., CIOMS, p.187
9. Kimura, Rihito., 1986, Life-Sustaining Technology for the Elderly in Japan, Report, Office of Technology Assessment, Sp. Rep. U. S. Congress.
10. Kimura Rihito 1986, Caring for newborns. Hastings Center Rep. 'In Japan, patients participate, but doctors decide', 16 (4) : 22-23
11. Kimura, Rihito. 1986, "Bioethik als metainterdisziplinäre Disziplin", Medizin Mensch Gesellschaft, Band 11, Heft 4, Dezember (IV) Ferdinand Enke Verlag Stuttgart
12. Kimura Rihito. : 1987 'Bioethics as a prescription for civic action', Journal of Medicine and Philosophy 12, 267-277.
13. Kimura Rihito., 1988. Bioethics in the international community. In: Bernard J, et al. (eds) Human dignity and medicine. Elsevier, New York, pp 191-196
14. Kimura Rihito., 1988. Bioethical and socio-legal aspects of the elderly in Japan - with special reference to life-sustaining technologies. In: Institute of Comparative Law (ed) Law in East and West. Waseda University Press, Tokyo, pp 175-200
15. Kimura, Rihito, 1989, Ethics Committees for "High Tech" Innovations in Japan, The Journal of Medicine and Philosophy; 14: 457-464.
16. Kimura, Rihito. 1989 "Ethics Committees fo 'High Tech' Innovation in Japan." Journal of Medicine and Philosophy 14, 457-464.
17. Kimura, Rihito. 1989 "Anencephalic Organ Donation: A Japanese Case." Journal of Medicine and Philosophy 14, no. 1:97-102
18. Kimura Rihito., 1990, Religious aspects of human genetic information. In: Chadwick D, et al. (eds) Human genetic information: science, law and ethics. Wiley, New York, pp 148-166
19. Kimura, Rihito., 1991 "Japan's Dilemma with the Definition of Death." Kennedy Institute of Ethics Journal 1 (2) : 123-131.
20. Kimura, Rihito., 1991. "Das japanische Forschungsprojekt." In: Sass, H.-M. (ed.). Genomanalyse und Genterapie. Springer-Verlag: Berlin, pp. 163-170.
21. Kimura, Rihito: 1991, "The Right to be Informed: An Aspect of Dignity', in World Health Forum 12, 391-392, World Health Organization, Geneva.
22. Kimura, Rihito., 1991 Fiduciary Relationship and the Medical Profession: A Japanese Point of View, In: E.D. Pellegrino et al. Eds. Ethics, Trust, and the Professions.' Philosophical and Cultural Aspects, pp. 235-245. Georgetown University Press, Washington, D.C.
23. Kimura, Rihito. 1991 "Jurisprudence in Genetics." In Ethical Issues of Molecular

- Genetics in Psychiatry, pp. Edited by S. Bulyzhenkov, Radim J. Sram, V. Bulyzhenkov, L. Prilipko, and Y. Christen. Berlin: Springer-Verlag. 157-168.
24. Kimura, Rihito., 1993. "Asian Perspectives: Experimentation on Human Subjects in Japan - Bioethical Perspectives in a Cultural Context." In: Bankowski, Z. et. al. (ed.). Ethics and Research on Human Subjects: International Guidelines. Council for International Organizations of Medical Sciences: Geneva, pp. 181-187.
  25. Kimura, Rihito: 1994, 'Bioethics and Japanese Health Care' in Washington-Japan Journal Vol. II, No. 4, 1-7.
  26. Kimura, Rihito., 1995, Contemporary Japan, History of Medical Ethics, Encyclopedia of Bioethics (ed. by Reich, Warren T.), vol. 3, p.1948, Simon & Schuster Macmillan, New York.
  27. Kimura, Rihito. 1997, "Verbrechen gegen die Menschlichkeit: Die vergessene Geschichte Japans. In Ethik und Medizin 1947-1997 : Was leistet die kodifizierung von Ethik ?, eds.U. Troeler and S. Reiter-Theil. Wallstein Verlag.
  28. Kimura, Rihito., 1997, The Need for New Images. In: World Health Forum 18, 2, pp. 137-138.
  29. Kimura, Rihito, Organ Transplantation and Brain Death in Japan-Cultural, Legal and Bioethical Background , in Annals of Transplantation Vol.3. No.3, 1998
  30. Kimura, Rihito. 1999. "Gentic Diagnosis and Gene Therapy in the Cultural Context Social and Bioethical Implications in Japan." In Gene Therapy and Ethics, ed. Anders Nordgren, Uppsala Acta Universitatis Upsaliensis
  31. Kimura, Rihito. 2003. "Bioethical Public Policy and the Making of the 1997 Japanese Long-Term Care Insurance Law." In Aging and Social Policy: A German-Japanese Comparison, eds.H.Conrad and R.Lutzeler. Munich: Iudicium Verlag
  32. Kimura, Rihito, 2004, Contemporary Japan, History of Medical Ethics in Post, Stephen ed. Encyclopedia of Bioethics, Macmillan References, New York

### 3. 学術論文 (1962年以降の主要な単著論文・邦文)

1. 木村利人, 1962, 拡がりゆく医のわざ, 『医学と福音』, 14 (8)
2. 木村利人, 1963, インドの家族計画 (1~7), 『家族計画だより』 64-70
3. 木村利人, 1963, イギリスにおける児童の福祉と司法の機能, 『早稲田法学会誌』 13, pp. 191-216
4. 木村利人, 1970, 東南アジア理解への手がかり, 『早稲田学報』 24 (3), pp. 12-16
5. 木村利人, 1972, ベトナムと日本人, 『教会教育』, 20 (11)
6. 木村利人, 1978, 人権と医の倫理, 『創造』, 80
7. 木村利人, 1979, 生命操作時代の衝撃: バイオエシックスの挑戦, 『福音と世界』, 34 (11)
8. 木村利人, 1980, バイオエシックスとは何か, 『大阪府医師会報』, 174
9. 木村利人, 1980, 患者のための医療を命題にバイオエシックスに取り組むべき, 『日経メディカル』, 108

10. 木村利人, 1980, 人権の学習は何かと問われて, 『教育科学「社会科教育」』 17 (12)
11. 木村利人, 1981, バイオエシックスとは何か: 12年目を迎えたアメリカのBioethics, 『国民文化』, 258
12. 木村利人, 1981, バイオエシックスと病院の機能, 『病院』, 40 (1), 医学書院
13. 木村利人, 1981, 人権とバイオエシックス (1): SFから憲法まで, 『法学セミナー』, 25 (1), 日本評論社, pp. 10-13
14. 木村利人, 1981, 人権とバイオエシックス (2): 科学の世紀から人権の世紀へ, 『法学セミナー』, 25 (2), 日本評論社, pp. 49-53
15. 木村利人, 1981, バイオエシックスを考える: 生命・医療・未来, 『日本医事新報』, 2984
16. 木村利人, 1981, 人権とバイオエシックス (3): 開発途上国から世界共同体へ, 『法学セミナー』, 25 (3), 日本評論社, pp. 74-78
17. 木村利人, 1981, 人権とバイオエシックス (4): DNAから人間まで, 『法学セミナー』, 25 (4), 日本評論社, pp. 106-109
18. 木村利人, 1982, バイオエシックスを考える, 『北里大学医学部医の哲学と倫理部会報』, 20
19. 木村利人, 1982, バイオエシックスと医療 1. バイオエシックスと医の倫理, 『病院』, 41 (1), 医学書院
20. 木村利人, 1982, バイオエシックスと医療 2. 「死」とバイオエシックス, 『病院』, 41 (2), 医学書院
21. 木村利人, 1982, バイオエシックスと医療 3. 真実告知 (Truth Tellingについて), 『病院』, 41 (3), 医学書院
22. 木村利人, 1982, バイオエシックスと医療 4. バイオエシックスの考え方 (1), 『病院』, 41 (4), 医学書院
23. 木村利人, 1982, バイオエシックスと医療 5. バイオエシックスの考え方 (2) 情報の共有, 『病院』, 41 (5), 医学書院
24. 木村利人, 1982, バイオエシックスと医療 6. バイオエシックスの考え方 (3) 決断の共有, 『病院』, 41 (6), 医学書院
25. 木村利人, 1982, バイオエシックスと医療 7. バイオエシックスの考え方 (4) 方策の共有, 『病院』, 41 (7), 医学書院
26. 木村利人, 1982, バイオエシックスと医療 8. バイオエシックスの思想と文化 (1) ヒポクラテスへの訣別, 『病院』, 41 (8), 医学書院
27. 木村利人, 1982, バイオエシックスと医療 9. バイオエシックスの思想と文化 (2) 「医は仁術」の国際化, 『病院』, 41 (9), 医学書院
28. 木村利人, 1982, バイオエシックスと医療 10. バイオエシックスの思想と文化 (3) 全人医療のための指針, 『病院』, 41 (10), 医学書院
29. 木村利人, 1982, バイオエシックスと医療 11. 病院での患者教育, 『病院』, 41 (11), 医学書院
30. 木村利人, 1982, バイオエシックスと医療 12. 未来からの教育, 『病院』, 41 (12), 医学書院
31. 木村利人, 1983, アメリカにおける遺伝子操作その後, 『国民文化』, 282
32. 木村利人, 1983, バイオエシックス, 『医科学大事典』, 講談社, 37
33. 木村利人, 1984, バイオエシックス・セミナー 1. バイオエシックスの視座, 『看護学雑誌』, 48 (1), 医学書院, pp. 101-104



34. 木村利人, 1984, 生命操作時代の法と人権, 『大学時報』, 33 (174)
35. 木村利人, 1984, バイオエシックス・セミナー 2. プリーズ・レットミー・ダイ, 『看護学雑誌』, 48 (2), 医学書院, pp.221-224
36. 木村利人, 1984, バイオエシックスの視座: 生命操作時代の学問と教育, 『早稲田フォーラム』, 43
37. 木村利人, 1984, バイオエシックス・セミナー 3. 赤ちゃんの生と死をめぐって, 『看護学雑誌』, 48 (3), 医学書院, pp.341-344
38. 木村利人, 1984, バイオエシックス・セミナー 4. <自然な生>の終わり, 『看護学雑誌』, 48 (4), 医学書院, pp.461-464
39. 木村利人, 1984, バイオエシックス・セミナー 5. 共に生きる試み, 『看護学雑誌』, 48 (5), 医学書院, pp.581-584
40. 木村利人, 1984, バイオエシックス・セミナー 6. バイオエシックス委員会, 『看護学雑誌』, 48 (6), 医学書院, pp.701-704
41. 木村利人, 1984, バイオエシックスの機能: 生と死の決定をめぐって, 『からだの科学』臨時増刊号, 日本評論社
42. 木村利人, 1984, バイオエシックス・セミナー 7. 患者はパートナー, 『看護学雑誌』, 48 (7), 医学書院, pp.821-824
43. 木村利人, 1984, バイオエシックス・セミナー 8. 体外受精と代理母, 『看護学雑誌』, 48 (8), 医学書院, pp.941-944
44. 木村利人, 1984, バイオエシックス・セミナー 9. 遺伝子治療の意味, 『看護学雑誌』, 48 (9), 医学書院, pp.1061-1064
45. 木村利人, 1984, バイオエシックス・セミナー 10. 家族計画のルーツと展望, 『看護学雑誌』, 48 (11), 医学書院, pp.1301-1304
46. 木村利人, 1984, バイオエシックス・セミナー 11. 職業としての看護, 『看護学雑誌』, 48 (12), 医学書院, pp.1421-1424
47. 木村利人, 1985, バイオエシックス・セミナー 12. 看護の未来のために, 『看護学雑誌』, 49 (1), 医学書院, pp.101-104
48. 木村利人, 1985, 脳死とバイオエシックス, 『治療学』, 14 (4), ライフ・サイエンス出版, pp.491-494
49. 木村利人, 1985, バイオエシックスの動態, 『倫理』, 7
50. 木村利人, 1986, 患者の権利: 国際的動向と展望, 『死の臨床研究』, 8 (1), 死の臨床学会
51. 木村利人, 1987, 人権運動としてのバイオエシックス, 『人権と教育』, 167
52. 木村利人, 1988, バイオエシックスと看護の未来, 『看護展望』, 13 (4)
53. 木村利人, 1988, バイオエシックスの新展開研究と運動のルーツ, 『メディカル・ヒューマニティ』, 3 (2), 蒼穹社
54. 木村利人, 1988, 地域コミュニティのバイオエシックス, 『メディカル・ヒューマニティ』, 3 (3), 蒼穹社
55. 木村利人, 1988, インフォームド・コンセントをめぐって, 『メディカル・ヒューマニティ』, 3 (4), 蒼穹社
56. 木村利人, 1989, アメリカの実情から日本を見る, 『科学朝日』, 49 (1), p.21

57. 木村利人, 1989, 生命操作とバイオエシックス, 『ヒューマンサイエンス』, 2 (1), 早稲田大学人間総合研究センター
58. 木村利人, 1989, 生命倫理とジャーナリズムのかかわり, 月刊『ジャーナリズム研究』26 (21)
59. 木村利人, 1989, 「生命倫理 (バイオエシックス)」とジャーナリズムの役割, 『総合ジャーナリズム研究』, 26 (2), 東京社, pp.8-13
60. 木村利人, 1989, あなたのいのちは誰のもの: 医療とバイオエシックスの考え方, 『国民文化』, 356, 国民文化会議
61. 木村利人, 1989, 水とバイオエシックス, 『G-ten』, 天理やまと文化会議
62. 木村利人, 1990, 人間遺伝子解析とバイオエシックス, 『ヒューマンサイエンス』, 3 (1), 早稲田大学人間総合研究センター
63. 木村利人, 1990, インフォームド・コンセント, 『「説明と同意」についての講演・質疑速記録集』, 日本医師会生命倫理懇談会
64. 木村利人, 1990, 医療変革をもたらしたもの—総論—バイオエシックスの立場から, 『日本歯科医師会雑誌』, 43 (3), 日本歯科医師会
65. 木村利人, 1990, なぜ専門家の教育が必要か—バイオエシックスの立場から—, 『仏教 (別冊4)』, 法蔵館, pp.106-110
66. 木村利人, 1991, 日本における医の倫理の問題性とバイオエシックス: 仁術とヒポクラテスからの脱却, 『周産期医学』, 東京医学社, 21 (3), pp.337-340
67. 木村利人, 1991, 終末期医療における真実告知: 理念・歴史・問題点, 『ターミナルケア』, 1 (1), 三輪書店
68. 木村利人, 1991, 生と死の主権者: 法とバイオエシックスの視座から, 『大学時報』, 40 (218), 日本私立大学連盟
69. 木村利人, 1991, 臨終の終焉: いのちの主権者としての選択, 『聖書と教会』, 日本キリスト教団出版局, 通303
70. 木村利人, 1991, いのちの再構築: バイオエシックス運動の視座, 『CANDANA』, 中央学術研究所, 136
71. 木村利人, 1991, 看護とバイオエシックスの歴史, 『メディカル・ヒューマニティ』, 蒼穹社, 6 (1)
72. 木村利人, 1991, 患者の権利: バイオエシックスの発想, 『からだの科学』, 日本評論社, 161, pp.2-5
73. 木村利人, 1992, 地球化時代のバイオエシックス: 難民の健康及び医療と日本の役割, 『生存科学』, 2 (2), 生存科学研究所, pp.3-11
74. 木村利人, 1992, 高齢化社会と尊厳死: 法とバイオエシックスの視座から, 『Emergency Nursing』, 12, メディカ出版
75. 木村利人, 1993, ヒトの遺伝とバイオエシックス: 宗教的アプローチの意義, 『ヒトの遺伝・生物の科学・遺伝別冊5』, 裳華房, pp.168-174
76. 木村利人, 1993, 先進医療とバイオエシックス, 『年鑑人工臓器1993』, 中山書店
77. 木村利人, 1993, バイオエシックスの展開と作業療法, 『長野県作業療法士会学術誌』, 11, 長野県作業療法士会
78. 木村利人, 1993, 医師・患者双方の意識改革なしにインフォームド・コンセントは進まない,

- 『日本の論点'94』, 文芸春秋
79. 木村利人, 1994, 患者の権利とはなにか, 『患者中心の医療をめぐる学際的研究 (報告論文集)』, 文部省科学研究報告書
  80. 木村利人, 1994, ヒト・ゲノム解析研究の問題点, 『患者中心の医療をめぐる学際的研究 (報告論文集)』, 文部省科学研究報告書
  81. 木村利人, 1994, 高齢化社会とバイオエシックス, 『患者中心の医療をめぐる学際的研究 (報告論文集)』, 文部省科学研究報告書
  82. 木村利人, 1994, 末期ケアにおけるバイオエシックス, 『日本サイコオンコロジー学会誌』, 7 (1), 日本サイコオンコロジー学会
  83. 木村利人, 1995, 「問い」を学ぶ教育, 『中央公論』, 110 (11), 中央公論社, pp.21-23
  84. 木村利人, 1995, 尊厳死と医療, 『人間の医学』, 30 (6), 実地医家のための会
  85. 木村利人, 1995, 患者の生の充実を求めて, 『けんりほうnews』, 49, 患者の権利法をつくる会
  86. 木村利人, 1995, 厚生省検討会報告書の問題点: 誤解されたインフォームド・コンセント, 『国際BIOETHICS NETWORKニュースレター』, 20, 早稲田大学人間総合研究センター
  87. 木村利人, 1996, 日本の生命医学倫理展開のために—T. ビーチャム・J・チルドレス著「生命医学倫理」刊行に寄せて—, 『国際BIOETHICS NETWORKニュースレター』, 早稲田大学人間総合研究センター
  88. 木村利人, 1996, バイオエシックスに見る生病老死 (1) バイオエシックスとは何か, 『LIFENCE』, 1, 後藤学園
  89. 木村利人, 1996, バイオエシックスに見る生病老死 (2) いのちのはじめのバイオエシックス, 『LIFENCE』, 2, 後藤学園
  90. 木村利人, 1997, インフォームド・コンセントの成り立ちと意義, 『イデアフォー通信』, 21, イデアフォー
  91. 木村利人, 1997, 医の倫理の課題と展望: バイオエシックスの視座から, 『最新内科学体系1別冊医師と患者』, 中山書店, pp.23-31
  92. 木村利人, 1997, バイオエシックスに見る生病老死 (3) 病—病気を見る医療から人間を見る医療へ, 『LIFENCE』, 4, 後藤学園, pp.18-21.
  93. 木村利人, 1997, バイオエシックスに見る生病老死 (4) 老—新しい時代をつくるお年寄りたちの活動, 『LIFENCE』, 4, 後藤学園, pp.20-23.
  94. 木村利人, 1997, 健康のイメージと伝統医療: バイオエシックスの視座から, 『全日本鍼灸学会雑誌』, 47 (3), 全日本鍼灸学会, pp.93-100.
  95. 木村利人, 1997, バイオエシックスに見る生病老死 (最終回) 死—揺れ動くいのちの終わり, 『LIFENCE』, 6, 後藤学園, pp.11-15.
  96. 木村利人, 1997, 生命科学技術の展開と公共政策—バイオエシックス研究プロジェクトの回顧と展望—, 『ヒューマンサイエンス』, 10 (1), 早稲田大学人間総合研究センター, pp.45-50
  97. 木村利人, 1998, バイオエシックス—世界の動向・展望と課題, 『プライマリーケア学会誌』, 21 (1), 日本プライマリーケア学会, pp.74-77
  98. 木村利人, 1998, 変わりつつある医療人と患者の関係—バイオエシックスを見つめて, 『ヒポクラテス』, 1 (5), 九段出版・情報センター, pp.4-7.

99. 木村利人, 1998, 生殖補助医療とバイオエシックス, 『国際Bioethics Networkニュースレター』, 27, 早稲田大学人間総合研究センター, p. 1
100. 木村利人, 1999, インフォームド・コンセント—自分の人生を選び取るために—, 『看護技術』, 45 (6), pp. 86-90.
101. 木村利人, 1999, 遺伝子診断・治療とバイオエシックス—公共政策形成過程の視座, 『日本医師会雑誌』, 122 (12), 日本医師会, pp. 1849-1853
102. 木村利人, 2000, 「いのち」のクオリティ, 『海外と文化を交流する会会報』, 6, pp. 2-6.
103. 木村利人, 2000, 「戦争」の世紀から「いのち」の世紀へ—バイオエシックスの視座からのテクノエシックスの提言, 『日本機械学会誌』, 103 (97), (社) 日本機械学会, pp. 95-98
104. 木村利人, 2000, 戦争が「博物館」へ—バイオエシックスの原点への再訪—, 『国際Bioethics Networkニュースレター』, 30, 早稲田大学人間総合研究センター, p. 1
105. 木村利人, 2000, バイオテクノロジーと生命倫理—ヒトゲノム解析研究のELSIをめぐる—, 『特技懇』, 214, 特許庁技術懇話会, pp. 22-26
106. 木村利人, 2000, これからの医療のあり方を考える—バイオエシックスの新しい世紀へ—, 『最新家庭医学百科』, 主婦の友社編・角川書店, pp. 161-176
107. 木村利人, 2000, インフォームド・コンセント, 『メディカルエシックス21』, 大学医学部医科大学倫理委員会連絡懇談会編, pp. 6-15
108. 木村利人, 2001, バイオテクノロジーとバイオエシックス, 『早稲田大学バイオテクノロジーと法シンポジウム・プロシーディング資料』, pp. 39-46
109. 木村利人, 2001, 生命倫理とガイドライン, 『神奈川技術アカデミー研究資料集』, pp. 1-6
110. 木村利人, 2001, バイオテクノロジーと生命倫理, 『特許庁委託事業・大学における知的財産権研究プロジェクト成果報告書』, pp. 283-287
111. 木村利人, 2001, バイオエシックスと医の倫理の変革—日米における文化の比較を手がかりに—, 『富山医師会報』, 365, pp. 12-14
112. 木村利人, 2001, 患者を主体とした医療を作る時代へ, 『がん治療最前線』, 1 (4), pp. 62-64
113. 木村利人, 2001, バイオエシックスと未来文明: グローバルな合意を求めて, 『生命倫理』, 11 (1), 日本生命倫理学会, pp. 161-168
114. 木村利人, 2001, クローン人間は禁止すべきか, 『日本の論点2002』, 文藝春秋, pp. 588-593
115. 木村利人, 2001, クローン人間と生命倫理, 『別冊東京青年』, 385, 東京キリスト教青年会
116. 木村利人, 2001, 患者の権利とパートナーシップ, 『医療経営情報』, 133, エルゼビアサイエンスミクス
117. 木村利人, 2001, ペイシエント・アドボカシー—21世紀医療のキーワード—, 『Capsule』, 69, 日本製薬工業協会広報委員会
118. 木村利人, 2001, アメリカ医師会「医の倫理原則」—その動向と展望—, 『日本医事新報』, 4052, 日本医事新報社
119. 木村利人, 2001, 宗教とヒトゲノム解析・クローン人間を考える, 『第169回宗教と医療を考える会報告書』
120. 木村利人, 2002, Technical Term: 緩和医療, 『患者の権利』, 先端医学社
121. 木村利人, 2002, バイオテクノロジーとELSI問題について, 『特許庁委託事業・大学における

- 知的財産権研究プロジェクト成果報告書』, pp. 153-165
122. 木村利人, 2002, アメリカ医師会「医の倫理原則」, 『日本医師会雑誌』, 128 (3)
  123. 木村利人, 2002, Doing Bioethics—バイオエシシトの現場に学ぶ, 『国際Bioethics Network ニュースレター』, 35, 早稲田大学人間総合研究センター, p. 1
  124. 木村利人, 2002, Advocacyと高齢者, 『ILC News Letter』, 1, 国際長寿センター
  125. 木村利人, 2003, 希望の未来への教育の構築, 『助産婦雑誌』, 57 (1), 医学書院
  126. 木村利人, 2003, 先端医科学技術と生命倫理, 『明治学院大学・公開講座教材』, pp. 1-2
  127. 木村利人, 2003, 患者のための医療から患者中心の医療へ, 『関西HIVカンファレンス2003年 1月号』, 国立大阪病院/HIV診療医師情報網, pp. 4-37
  128. 木村利人, 2003, いのちを考える—21世紀の生と死, 『関西学院大学キリスト教と文化研究所 ニュースレター』, No. 4・5 合併号, pp. 2-15
  129. 木村利人, 2003, ヒトゲノム解析研究と広島・長崎, 『Law and Technology』, 20.
  130. 木村利人, 2003, 遺伝子検査と倫理, 『セパレーション・サイエンス2003資料集』, pp. 25-27
  131. 木村利人, 2003, 医の倫理総論—日米の比較と未来の展望, 『心療内科』, 7 (5), pp. 335-360
  132. 木村利人, 2004, 国民のための司法・医療制度改革～バイオエシックスの視座から, WASEDA.COM, <http://www.asahi.com/ad/clients/waseda/opinion/opinion74.html>

※その他、評論、エッセイ、新聞コメントなど多数。

「木村利人・全業績データTOPページ」

(<http://www.bioethics.jp/database/index-j.html>) 各項目参照

#### 4. 科研費による研究成果

- A) 平成8～9年度文部省科研費基盤研究「アドバンス・ダイレクティブ（事前指示）の日本社会における適用可能性」研究代表者 木村利人
- B) 平成9～11年度文部省科研費基盤研究「日本における倫理委員会の機能と責任性に関する研究」研究分担者 木村利人

#### 5. 国際シンポジウムの組織と運営（主なもの）

1988年以降、人総研「バイオエシックス研究プロジェクト」および「国際バイオエシックス・バイオ法研究所」とで共催した国際会議・シンポジウムなどを含む。

1973年8月「Law in the Service of Human Needs」国際会議（ジュネーブ・エキュメニカル研究所）

1974年8月「Human Rights and Struggle for Justice」国際会議（同上）

1975年8月「Human Rights and Dignity of Human Life」国際会議（同上）

1989年1月22日

早稲田大学国際バイオエシックス・シンポジウム「生命倫理とコミュニケーション」

1991年7月19～21日

早稲田大学国際バイオエシックス会議「患者にとって医療とは何か」(報告書・1992年刊)

1995年6月29～30日(ドイツ連邦共和国ボン大学にて)

早大バイオエシックス・プロジェクト・日独国際シンポジウム「Genetics and Physiology—  
Biomedical, Sociolegal and Bioethical Approaches」

2001年3月25日(ジョージタウン大学ケネディ倫理研究所にて)

早大国際バイオエシックス・シンポジウム「Bioethics and Culture」

2002～2003年 国際交流基金日米センター研究助成による国際バイオエシックス・シンポジウム・  
シリーズを早稲田大学国際会議場井深大記念ホールにて開催。

## 5. 学会及び政府審議会などでの活動

日本生命倫理学会理事 1988年—現在

東京都病院倫理委員会・委員長 1991年—現在

厚生省(のち、厚生労働省)厚生科学審議会委員 1997—2003年

同上・厚生科学審議会・先端医療技術評価部会 1997—2000年

厚生省(のち、厚生労働省)医療関係者審議会専門委員 1999—2001年

厚生労働省・医師国家試験委員 2000年—現在

内閣府・司法制度改革推進本部・法曹制度検討会委員 2002年—現在

## 6. 学内兼職

早稲田大学商議員 1987年—1997年